

◆◆◆ エルニーニョ現象、発生兆しから発生へ

世界の気象に大きな影響を及ぼすエルニーニョ現象の発生兆しがこの6月ごろから顕著になり、今年下半期から来年にかけて現象が持続するとの見方が、我が国の気象庁、アメリカの海洋大気庁（NOAA）やオーストラリアの気象局をはじめ多くの国家気象機関から発表されています。NOAAは、7月9日の発表のなかで、「向こう数ヶ月間、エルニーニョ現象の発達が一段と強化する可能性があり、その後も2009/2010年の北半球の冬季を通じて継続する。」としています。

なお、気象庁のホームページに、1979年から2009年2月までの新たな資料の統計結果をもとにしたエルニーニョ現象発生時の世界や日本の天候の傾向が掲載されています。